

(重) 松山港中・長期ビジョン検討委員会 (第1回) 議事録

1 開催日時 令和5年2月20日(月) 13時30分

2 開催場所 愛媛県中予地方局 7階大会議室

3 出席委員 出席者名簿のとおり

4 議事

(1) 松山港の現状と課題等について

(2) 意見交換

(3) その他

5 議事要旨

(1) 開会

(2) 委員・幹事紹介

(3) 委員会設置要綱

(4) 委員長選任

(5) 議事

ア 松山港の現状と課題等について

事務局から内容説明

イ 意見交換

委員区分	
港湾関係者	<ul style="list-style-type: none">・松山港の活性化には交通アクセスの向上が不可欠。・賑わいが不足する松山港北部(三津～梅津寺～松山観光港方面)においては活性化を図るため、様々な施設整備が必要。・カーボンニュートラルに向け、主要なエネルギー消費者にヒアリングを行い、今後、どのようなエネルギーを利用していくのか把握する必要がある。

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・船舶の大型化への対応について、近隣の港湾との役割分担を考えてから方向性を決める必要がある。 ・松山港は防災拠点となる港湾であるが、道路が混雑しており、災害があった時に物資の運搬に遅れが生じる懸念がある。 ・松山港だけに限らず、新居浜港や三島川之江港にも共通していることだが、荷物の仮置き場が不足している。 ・愛媛県全体で、港湾背後地の仮置き場が非常に不足している。松山港で背後地にコンテナ仮置き場や上屋・倉庫用地を確保すれば活性化するだろう。 ・八幡浜の「みなっと」、宇和島の「きさいや広場」のように物産、特に水産物を提供できる場がほしい。 ・水産庁でも 2025 年度を目途にカーボン・オフセット制度の試算等の検討がなされており、注視している。 ・港だけでなく中心市街地と棲み分けて連携できるような、特色ある賑わいづくりの方向性を示してもらいたい。 ・外航クルーズ船の経済波及効果は非常に大きく、入港拡大に期待している。将来、クルーズ船の寄港は増加すると考えられるため、できれば貨物利用とは分離して、クルーズ船専用で使える岸壁やターミナルがあればよい。
学識経験者	<ul style="list-style-type: none"> ・短期的、中期的、長期的といった時間スケールを入れた検討が必要。 ・人口減少が見込まれる中、現状施設を維持するのか、老朽化施設をどうするのか疑問。 ・市民が集う、魅力ある港にするには、人が集まるような特色つけた取組み(例えば SDGs やカーボンニュートラル等)や、海から陸、または陸から海の双方の視点による景観整備が必要であり、地元企業の意識づけになるような地区毎のビジョンを取り入れるとよい。 ・クルーズ船を受入れるためのハード整備とともに、地元事業者や住民と協力して経済効果を上げていくための地域との連携やまちづくりとの連携が重要。 ・港の中に複数の拠点が必要であり、全体としてゾーニングをしつつ、それぞれの役割や機能に合った拠点づくりが必要。そして整備した拠点が線としてつながるように、ゾーニングをどうつなげていくかが、観光とまちづくりでは重要。また中心市街地や愛媛県全体に向かう動線を整備していくことが重要。 ・施設整備に当たっては、市民が訪れる場所としての賑わいなのか、クルーズ船や外国人観光客をターゲットとした賑わいなのか、ターゲットを明確にしておく必要がある。特に外国人観光客をターゲットとする場合は、松山在住の外国人の意見を聞くことなども有効だろう。

行政機関	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が見込まれる中、海外の成長力を取り込むことが極めて重要であり、クルーズを軸にした地域の周遊性を、観光部局とも連携して描いていくことが重要。 ・メガヨットについて、富裕層に継続的に来てもらうにはしっかりと戦略を練っていく必要がある。ハード面だけでなく、ソフト面でもタイアップすることが必要。 <p>トラックドライバー不足や 2024 年問題への対応について、フェリーや RORO 船の大型化や、九州方面から四国を經由して関西や関東へつなぐことを検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの賃金上昇や、コロナ感染症拡大による生産の混乱などがあり、日本への工場回帰が進む可能性があるとともに、脱炭素化の観点から工場再編の動きがあり、用地不足の声があるため、用地造成を検討いただきたい。 ・モーダルシフトはトラックドライバー不足や 2024 年問題等への対応であると同時に、CO2 削減やカーボンニュートラル対応においても対策の 1 つとなることを明記いただきたい。 ・港湾計画策定の際は、海上交通・船舶交通の安全も十分考慮に入れた計画としていただきたい。 ・外環状道路整備を契機とした企業誘致の推進や、新たな物流ルートの形成が図れるよう、陸上アクセスの向上を考慮した計画としていただきたい。 ・松山港が市内観光の起点となるよう、クルーズ船の乗客の円滑な移動や利便性向上を図るため、建物等の整備も視野に入れていただきたい。 ・将来の人口減少(愛媛県2040年～2050年あたりで100万人を切るぐらいの予測)を前提にしてしまうと負のスパイラルに陥ってしまうため、それを克服するために将来ビジョンを示すという意味で、中・長期ビジョンは非常に重要なもの。持続可能な発展となるようなビジョンづくりを進めたい。
------	--

ウ その他

事務局から今後の予定等について説明

(6) 閉会